鳥取県教育文化財団調査報告書17

鳥取大学附属図書館
寄贈

鳥取県米子市

中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

上福万遺跡・日下遺跡
石州府第1遺跡・石州府古墳群

（本 文 編）

1985

鳥取大学附属図書館
郷土資料室

財団法人　鳥取県教育文化財団

上福万遺跡・日下遺跡・石州府第１遺跡・石州府古墳群

正　誤　表

ページ	行	誤	正
5	10	陶器、	陶磁器、
	15	陶器等の散布、	陶磁器等の散布、
11	34	亜円礫～亜円礫層	亜円礫～亜角礫層
44	8	不明石器	特殊石器
65	挿表2	不明石器一覧表	特殊石器一覧表
77	9	JPit 3	9EJPit 3
95	3	不明石器	特殊石器
183	9	硬玉製で、	軟玉製で、
付図9			9ライン以南のDOTの原位置はすべて西へ10m移動した箇所である。

鳥取県教育文化財団調査報告書17

鳥取県米子市

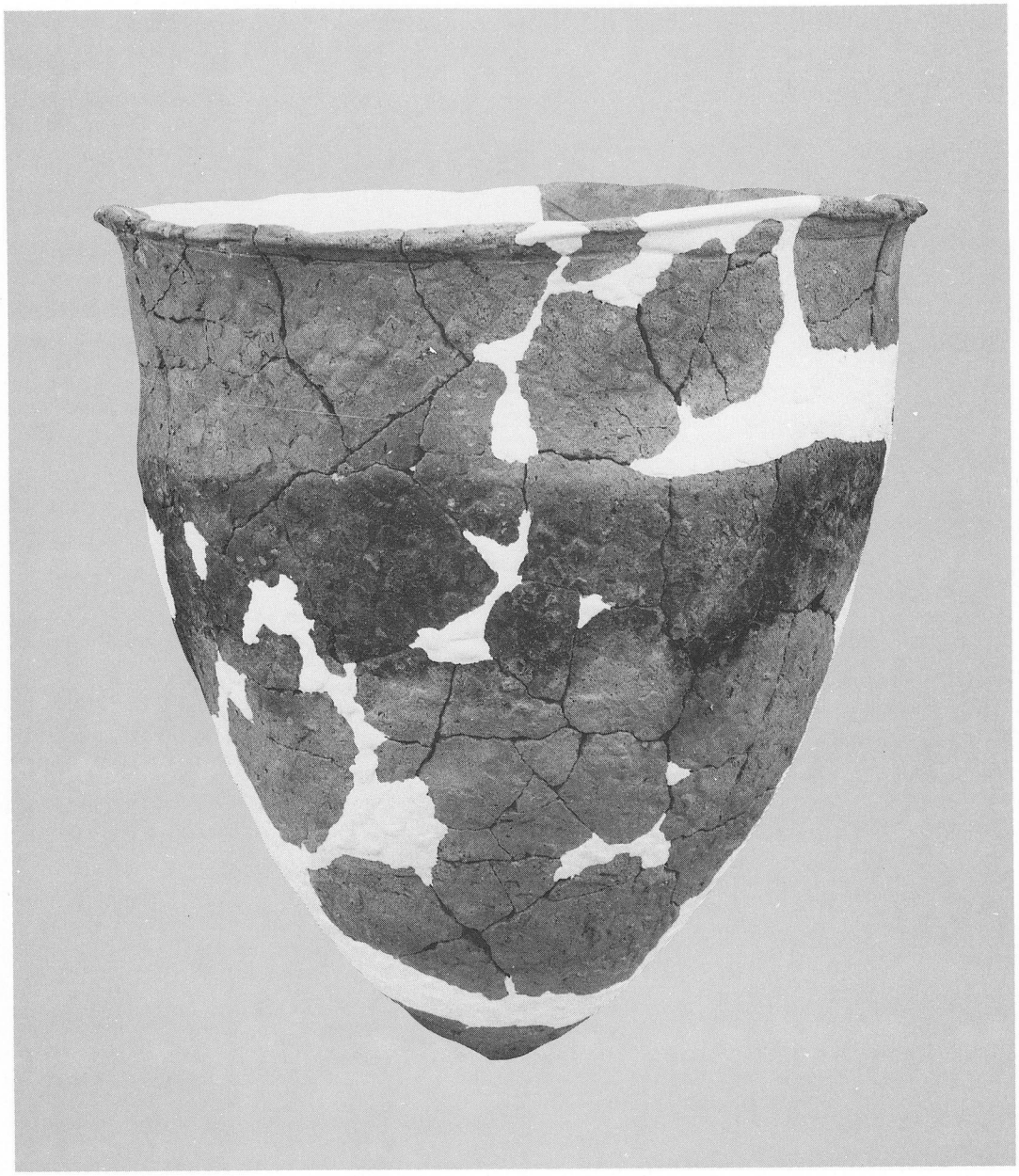
中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

上福万遺跡・日下遺跡
石州府第1遺跡・石州府古墳群

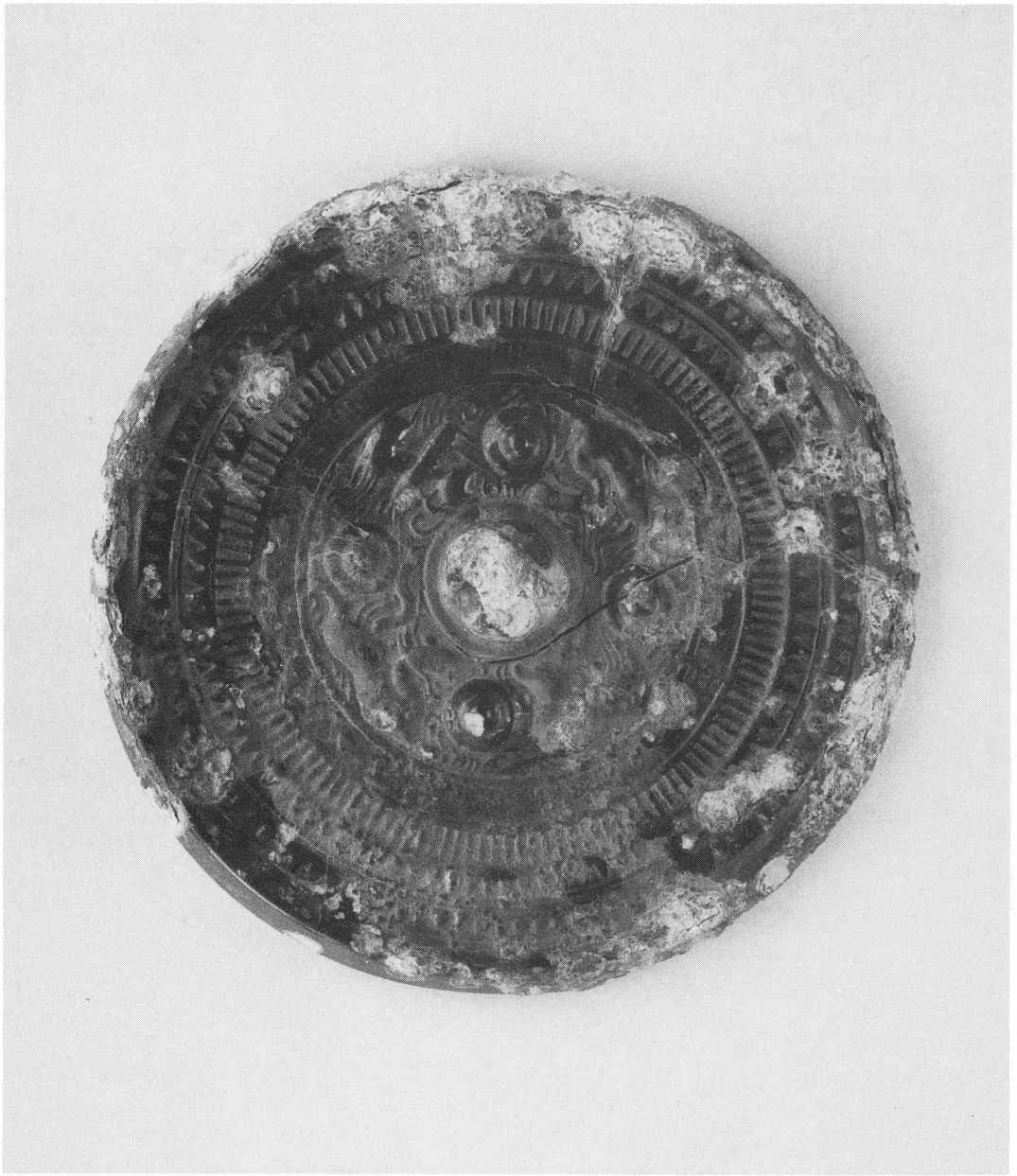
（本 文 編）

鳥取大学附属図書館
郷土資料室

財団法人　鳥取県教育文化財団



縄文式土器（深鉢）上福万遺跡出土



銅　鏡（獣帯鏡）石州府29号墳出土

序　　文

中国横断自動車道岡山・米子線の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、日本道路公団の委託を受けて、昭和57年８月から当財団が実施しているところである。

昭和59年度は、大山の北西に位置する佐陀川左岸の上福万遺跡を中心に調査を行った。

調査の結果、当初予想された古墳期集落跡のほか、その下層部約7000平方米から縄文時代早期の集石遺構31基をはじめ、多数の土器類、石器類が検出された。

現在までのところ、本県ではこのような規模をもつ縄文時代早期の発掘例はなく、今後本県における古代史の解明に役立つことはもとより、広く研究者に活用されることを期待してやまない次第である。

おわりに、この調査に全面的な御協力をいただいた地元の皆さんをはじめ、御指導いただいた方々、そのほか関係の各位に対し心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

昭和60年10月

財団法人鳥取県教育文化財団
理事長　西　尾　邑　次

例　　言

1　本報告書は、日本道路公団の委託をうけて、鳥取県教育文化財団がおこなった「中国横断自動車道岡山・米子線」の米子地区の発掘調査報告書である。

2　この調査は、米子市上福万字北林・廣畑・八久保田南に所在する上福万遺跡、米子市日下字河原渕地域の日下遺跡、米子市石州府字寺處ノ参に所在する石州府29・30号墳、米子市石州府字山ノ下タニに所在する石州府第１遺跡の発掘調査である。

3　赤木三郎氏（鳥取大学教育学部長）、　根鈴輝雄氏（倉吉市社会教育課嘱託）から御多忙のところ原稿をいただいた。謝意を表したい。また、赤木三郎氏に石材鑑定をしていただいた。

4　発掘ならびに本報告書の作成にあたっては、つぎの方々から多くの御教示をいただいた。

鳥取県文化財保護審議会委員
　山本清　手嶋義之　佐々木謙　稲田孝司
橿原考古学研究所
　松田真一
柏原市歴史資料館
　竹下賢
北九州市立歴史博物館
　小田富士雄
倉吉市立博物館
　真田廣幸
奈良国立文化財研究所
　田中琢　町田章　土肥孝
香川大学
　丹羽祐一
京都大学
　山中一郎
帝塚山大学
　堅田直　家根祥多　磯谷和明
鳥取県立博物館
　福井淳人
鳥取大学
　平勢隆郎
鳥取市教育委員会
　平川誠
奈良大学
　水野正好　酒井龍一　泉拓良　植野浩三
山口大学
　中村友博
新潟県教育委員会
　田中靖
桜井市教育委員会
　清水真一

5　発掘調査に際し、鳥取県教育委員会文化課からの御指導をいただいた。
　亀井熙人・田中弘道

6　発掘調査（約40日間の現地調査）及び遺物整理・報告書作成にあたっては、鳥取県埋蔵文化財センターの次の方々から御指導、御教示をいただいた。
　野田久男　加藤隆昭　久保穰二朗
また、埋蔵文化財センター内の施設・図書等を利用させていただくことにより、報告書作成の作業を滞りなく進めることができた。

7　本報告書の編集は、長岡・松本・笹尾・太田の４名による討議に基づいておこなった。

8　本文の遺構の執筆は調査担当者がおこない、その他は目次に氏名を記した。

9　遺構の実測、図面作成は、左藤博、杉田千津子、谷野重美、田中正夫、西田直史、長谷川蔦代の協力を得て調査員、調査補助員（野崎正美）が行なった。

10　遺物の整理は主に酒巻佐代子、柴田登喜子、寺岡昭子、山崎保子、山本博子、山本文恵が行ない、土器実測に坂口江津子、福田和美、石製品の実測に小林美奈の協力を得た。

また、石器・石鏃等の実測は調査員が行なった。

11　遺構の浄書は主に左藤博、入江典子、田中真由美が遺物の浄書は坂口江津子、福田和美が行ない調査員が補助した。また、石器・石鏃の浄書は笹尾が行なった。

12　遺構の撮影は調査担当者が行ない、遺物の撮影は長岡が行なった。

13　本報告書中の地図は、国土地理院発行の５万分の１地図「米子」、中国横断自動車道岡山・米子線・設計図（日本道路公団　１：6,000）を利用した。

14　本報告書にかかる遺物は、現在鳥取県埋蔵文化財センター（鳥取県岩美郡国府町）に保管し、将来的には米子市教育委員会に移管する予定である。

15　石州府第１遺跡は、1977年大山西麓埋文分布調査でいう石州府第１遺跡、1982年刊全国遺跡地図でいう栄開拓第3遺跡である。「米子市石州府遺跡群発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・1983・1984」中の石州府第１遺跡は、1977年大山西麓埋文分布調査でいう、石州府第４遺跡である。

16　調査に際し、県地区（あがた）自治連合会長野坂松衛、森山重義、松原利三郎には地元との調整等に援助をいただき作業を順調に進めることができた。明記して感謝しお礼を申し上げます。

（敬称略）

凡　　例

1　本報告書における方位は、すべて磁北を示す。

2　本報告書における遺物の記述は、各節あるいは各遺構の末尾に観察表を用いた。

3　当遺跡は10m ×10m のグリットを設定し区分した。

4　本報告書における遺構記号は次のように表わす。

ＳＢ：掘立柱建物　ＳＩ：竪穴住居　ＳＫ：土坑・土壙　ＳＸ：古墳・墳墓

ＪＳＤ：縄文溝状遺構　ＪＳＫ：縄文土坑　ＪＰｉｔ：縄文ピット

5　遺構挿図中における遺物記号は次のように表わす。

Ｃ：古銭　Ｈ：石器または剝片　Ｊ：玉製品　Ｍ：鏡　Ｆ：鉄製品　Po ：土器・瓦

Ｓ：石製品　Ｚ：石鏃

6　集石における遺物表示は次のように表わす。

石皿：　磨石：　敲石：　砥石：　焼石：

磨石・敲石・石皿の磨滅範囲：------　敲打痕：——　過度の磨耗：－－－－

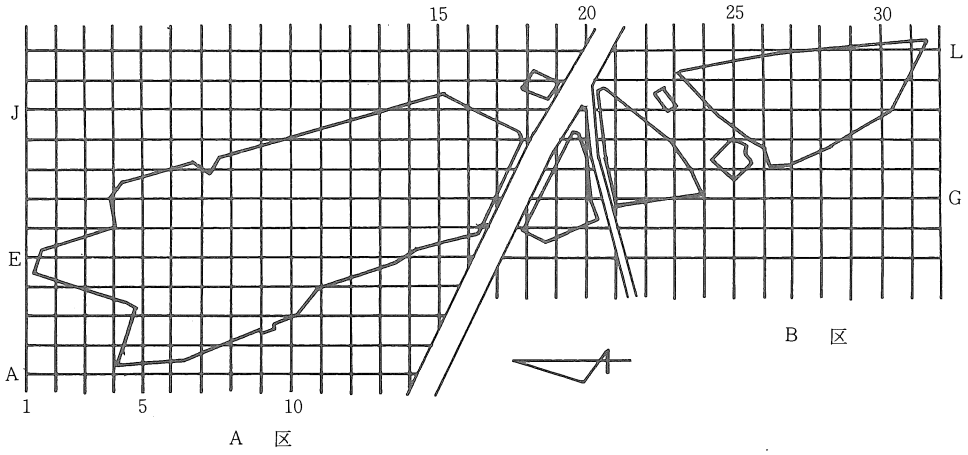
石斧等の敲打痕　磨痕

7　本報告書中のピットの計数は、Ｐ（長径×短径－深さ）で示した。単位はｍである。

8　遺構挿図中におけるセクション・エレベーションの基準線標高はＨ＝の記号で表わす。

9　遺構挿図中における遺構検出面はのように表わす。

10　実測図において粘土帯の継ぎ目がみられるものはで表わす。



挿図Ｉ　上福万遺跡グリッド設定位置図

上福万遺跡・日下遺跡・石州府第1遺跡・石州府古墳群目次

序　文

例　言

凡　例

第1章　遺跡の概要　（長岡）

第1節　調査に至る経過 …… 1

第2節　調査経過及び概要 …… 1

1　上福万遺跡 …… 1

2　日下遺跡 …… 3

3　石州府古墳群 …… 3

4　石州府第1遺跡 …… 4

第2章　位置と環境　（松本）

第1節　地理的環境 …… 5

第2節　歴史的環境 …… 5

第3章　上福万遺跡の調査

第1節　上福万遺跡の自然環境　（赤木三郎） …… 9

1　上福万遺跡の地形 …… 9

2　上福万遺跡と周辺の地質概観 …… 10

3　上福万扇状地の地質 …… 11

4　古 環 境 …… 12

5　遺跡の石材 …… 13

第2節　縄文時代の遺構　（長岡・太田）

1　集　　石 …… 17

2　縄文士坑 …… 69

3　縄文ピット …… 89

第3節　縄文時代の遺物

1　縄文式土器　（太田） …… 95

2　原石・剥片・石器・石鏃について　（根鈴輝雄） …… 155

3　石皿・磨石・敲石・砥石・石斧・石錘・特殊石器・ペンダント他石製品について　（長岡） …… 175

第４節　縄文時代のまとめ　（長岡）
１　集石遺構について …… 203
２　ま と め …… 204
第５節　古墳時代以降の遺構　（松本・笹尾）
１　竪穴住居 …… 205
２　掘立柱建物 …… 237
３　土坑・土壙 …… 250
第６節　遺構外遺物　（笹尾）…… 258
第７節　古墳時代以降のまとめ　（松本）
１　竪穴住居 …… 261
２　掘立柱建物 …… 262
３　ま と め …… 263

第４章　日下遺跡　（笹尾）…… 264

第５章　石州府古墳群　（松本）
第１節　石州府29号墳
１　墳　　丘 …… 273
２　周　　溝 …… 273
３　主 体 部 …… 273
４　29号墳第１・２主体部内遺物 …… 276
第２節　石州府30号墳
１　墳　　丘 …… 280
２　周　　溝 …… 281
３　主 体 部 …… 281
第３節　ま と め …… 281

第６章　石州府第１遺跡　（長岡）…… 283

調査関係者名簿 …… 285

挿　図　目　次

挿図Ⅰ　上福万遺跡グリッド設定位置図
挿図Ⅱ　上福万遺跡Ａ・Ｂ区、日下遺跡
石州府第１遺跡、石州府古墳群
調査地区概略図…… 2
挿図Ⅲ　周辺遺跡分布図 …… 6
挿図Ⅳ-1　上福万遺跡付近の地形面分布図 9
挿図Ⅳ-2　大山火山地質図 …… 10
挿図Ⅳ-3　上福万周辺の第四系層序表…… 11
挿図Ⅳ-4　上福万セクションＡ柱状図…… 12
挿図Ⅳ-5　米子付近の古地理図(縄文早期) 13

上福万遺跡

挿図 1　集石01遺構図 …… 17
挿図 2　集石01遺物図 …… 17
挿図 3　集石02遺構図 …… 18
挿図 4　集石03遺構図 …… 18
挿図 5　集石05遺構図 …… 19
挿図 6　集石05遺物図１ …… 20
挿図 7　集石05遺物図２ …… 20
挿図 8　集石06遺構図 …… 20
挿図 9　集石07遺構図 …… 21
挿図10　集石08遺物図 …… 22
挿図11　集石08遺構図 …… 22
挿図12　集石09遺構図 …… 23
挿図13　集石10遺物図 …… 24
挿図14　集石10遺構図 …… 24
挿図15　集石11遺構図 …… 26
挿図16　集石12遺物図 …… 25
挿図17　集石12遺構図 …… 27
挿図18　集石13遺構図 …… 28
挿図19　集石13遺物図１ …… 29
挿図20　集石13遺物図２ …… 29
挿図21　集石14遺物図 …… 29
挿図22　集石15遺構図 …… 30
挿図23　集石16遺物図１ …… 30
挿図24　集石14遺構図 …… 31
挿図25　集石16遺構図 …… 33
挿図26　集石16遺物図２ …… 34
挿図27　集石17遺物図 …… 34
挿図28　集石17遺構図 …… 35
挿図29　集石18遺構図 …… 36
挿図30　集石18遺物図 …… 36
挿図31　集石19遺構図 …… 37
挿図32　集石20遺物図 …… 38
挿図33　集石21遺物図 …… 38
挿図34　集石20遺構図 …… 39
挿図35　集石21遺構図 …… 41
挿図36　集石22遺構図 …… 42
挿図37　集石23遺構図 …… 43
挿図38　集石24遺構図 …… 43
挿図39　集石25遺物図１ …… 44
挿図40　集石25遺構図 …… 44
挿図41　集石25遺物図２ …… 45
挿図42　集石26遺物図 …… 46
挿図43　集石26遺構図 …… 47
挿図44　集石27遺構図 …… 48
挿図45　集石28遺構図 …… 49
挿図46　集石29遺構図２ …… 50
挿図47　集石29遺物図 …… 50
挿図48　集石29遺構図１ …… 51
挿図49　集石30遺構図 …… 53
挿図50　集石30遺物図 …… 55
挿図51　集石31遺構図 …… 56
挿図52　集石31遺物図 …… 56
挿図53　集石32遺構図 …… 57
挿図54　ＪＳＫ01遺構図 …… 69
挿図55　ＪＳＫ02遺構図 …… 69
挿図56　ＪＳＫ03遺構図 …… 69
挿図57　ＪＳＫ04遺構図 …… 69

挿図58　ＪＳＫ05遺構図 …… 70
挿図59　ＪＳＫ06遺構図 …… 70
挿図60　ＪＳＫ07遺構図 …… 70
挿図61　ＪＳＫ08遺構図 …… 70
挿図62　ＪＳＫ09遺構図 …… 71
挿図63　ＪＳＫ10遺構図 …… 71
挿図64　ＪＳＫ11遺構図 …… 71
挿図65　ＪＳＫ12遺構図 …… 72
挿図66　ＪＳＫ13遺構図 …… 72
挿図67　ＪＳＫ14遺構図 …… 72
挿図68　ＪＳＫ15遺構図 …… 73
挿図69　ＪＳＫ16遺物図 …… 73
挿図70　ＪＳＫ16遺構図 …… 73
挿図71　ＪＳＫ17遺構図 …… 74
挿図72　ＪＳＫ18遺構図 …… 74
挿図73　ＪＳＫ19遺構図 …… 74
挿図74　ＪＳＫ20遺構図 …… 75
挿図75　ＪＳＫ21遺構図 …… 75
挿図76　ＪＳＫ22遺構図 …… 76
挿図77　ＪＳＫ24遺構図 …… 76
挿図78　ＪＳＫ25遺構図 …… 76
挿図79　ＪＳＫ26遺構図 …… 76
挿図80　ＪＳＫ27遺構図 …… 77
挿図81　ＪＳＫ28・29遺構図 …… 77
挿図82　ＪＳＫ30・JPit ５遺構図 …… 78
挿図83　ＪＳＫ31遺構図 …… 78
挿図84　ＪＳＫ32遺構図 …… 79
挿図85　ＪＳＫ33遺構図 …… 79
挿図86　ＪＳＫ34遺構図 …… 80
挿図87　ＪＳＫ35遺構図 …… 80
挿図88　ＪＳＫ36遺構図 …… 80
挿図89　ＪＳＫ38遺構図 …… 80
挿図90　ＪＳＫ39遺構図 …… 81
挿図91　ＪＳＫ40遺構図 …… 81
挿図92　ＪＳＫ40遺物図 …… 81
挿図93　ＪＳＫ42遺構図 …… 81
挿図94　ＪＳＫ43遺構図 …… 82
挿図95　ＪＳＫ44遺構図 …… 82
挿図96　ＪＳＫ44遺物図 …… 83
挿図97　ＪＳＫ45遺構図 …… 83
挿図98　ＪＳＫ46遺構図 …… 83
挿図99　ＪＳＫ47遺構図 …… 83
挿図100　ＪＳＫ48遺構図 …… 84
挿図101　ＪＳＫ49遺構図 …… 84
挿図102　ＪＳＫ50遺構図 …… 84
挿図103　ＪＳＫ51遺構図 …… 85
挿図104　ＪＳＫ52遺構図 …… 85
挿図105　ＪＳＫ53遺構図 …… 85
挿図106　ＪＳＫ54遺構図 …… 86
挿図107　ＪＳＫ55遺構図 …… 86
挿図108　ＪＳＫ57遺構図 …… 87
挿図109　ＪＳＫ58遺構図 …… 87
挿図110　ＪＳＫ58遺物図 …… 88
挿図111　ＪＳＫ59遺構図 …… 88
挿図112　ＪＳＫ56遺構図 …… 88
挿図113　ＪＳＫ56遺物図 …… 88
挿図114　９Ｃ　JPit ２遺構図 …… 89
挿図115　８Ｄ　JPit ８遺構図 …… 89
挿図116　先行する土器群遺物実測図 …… 96
挿図117　Ⅰ類Ａ種遺物実測図 …… 98
挿図118　Ⅰ類Ｂ種①遺物実測図 …… 100
挿図119　Ⅰ類Ｂ種①遺物実測図 …… 101
挿図120　Ⅰ類Ｂ種②―ａ遺物実測図 …… 103
挿図121　Ⅰ類Ｂ種②―ａ遺物実測図 …… 104
挿図122　Ⅰ類Ｂ種②―ａ遺物実測図 …… 105
挿図123　Ⅰ類Ｂ種②―ｂ遺物実測図 …… 106
挿図124　Ⅰ類Ｂ種②―ｂ遺物実測図 …… 107
挿図125　Ⅰ類Ｃ種①遺物実測図 …… 108
挿図126　Ⅰ類Ｃ種①遺物実測図 …… 109
挿図127　Ⅰ類Ｃ種②遺物実測図 …… 110
挿図128　Ⅰ類Ｃ種②遺物実測図 …… 111
挿図129　Ⅰ類Ｄ種遺物実測図 …… 112

挿図130　Ⅱ類Ａ種遺物実測図…… 114
挿図131　Ⅱ類Ａ種遺物実測図…… 115
挿図132　Ⅱ類Ａ種遺物実測図…… 116
挿図133　Ⅱ類Ａ種・Ｃ種遺物実測図…… 117
挿図134　Ⅱ類Ｂ種遺物実測図…… 119
挿図135　Ⅱ類Ｂ種遺物実測図…… 120
挿図136　Ⅲ類遺物実測図　…… 122
挿図137　Ⅳ類遺物実測図　…… 124
挿図138　Ⅳ類遺物実測図　…… 125
挿図139　Ⅳ類遺物実測図　…… 126
挿図140　Ⅴ類遺物実測図　…… 128
挿図141　Ⅵ類遺物実測図　…… 129
挿図142　Ⅶ類遺物実測図　…… 131
挿図143　Ⅶ類遺物実測図　…… 132
挿図144　Ⅷ類遺物実測図　…… 134
挿図145　前期遺物実測図　…… 137
挿図146　後期遺物実測図　…… 137
挿図147　11Ⅰ縄文式土器出土状況…… 139
挿図148　10Ｄ縄文式土器出土状況…… 139
挿図149　剝片計測モデル図　…… 155
挿図150　素材及び石器・石核の石材相関図 158
挿図151　石鏃の長さと幅の相関図…… 160
挿図152　石器実測図　1　…… 165
挿図153　〃　2　…… 166
挿図154　〃　3　…… 167
挿図155　〃　4　…… 168
挿図156　〃　5　…… 169
挿図157　石鏃実測図　1　…… 170
挿図158　〃　2　…… 171
挿図159　〃　3　…… 172
挿図160　〃　4　…… 173
挿図161　〃　5　…… 174
挿図162　石皿実測図 1　…… 175
挿図163　〃　2　…… 176
挿図164　磨石実測図 1　…… 177
挿図165　〃　2　…… 178
挿図166　敲石実測図 1　…… 179
挿図167　〃　2　…… 180
挿図168　砥石実測図　…… 181
挿図169　石斧実測図 1　…… 182
挿図170　〃　2　…… 182
挿図171　石錘実測図　…… 183
挿図172　石製品実測図 1　…… 184
挿図173　〃　2　…… 185
挿図174　ＳＩ01遺構図　…… 205
挿図175　ＳＩ01遺物図 1　…… 206
挿図176　ＳＩ01遺物図 2　…… 207
挿図177　ＳＩ02遺構図　…… 208
挿図178　ＳＩ02・07遺物図 1　…… 209
挿図179　ＳＩ02・07遺物図 2　…… 210
挿図180　ＳＩ02遺物図 3　…… 211
挿図181　ＳＩ03遺構図　…… 212
挿図182　ＳＩ03遺物出土状況図　…… 212
挿図183　ＳＩ03遺物図 1　…… 213
挿図184　ＳＩ03遺物図 2　…… 213
挿図185　ＳＩ04遺構図　…… 214
挿図186　ＳＩ04遺物図 1　…… 215
挿図187　ＳＩ04甑型土器出土状況図…… 216
挿図188　ＳＩ04遺物図 2　…… 216
挿図189　ＳＩ05遺構図　…… 217
挿図190　ＳＩ05遺物図　…… 218
挿図191　ＳＩ06遺構図　…… 219
挿図192　ＳＩ06遺物図　…… 219
挿図193　ＳＩ08遺構図　…… 220
挿図194　ＳＩ08遺物図　…… 220
挿図195　ＳＩ09遺構図　…… 221
挿図196　ＳＩ09遺物図 1　…… 221
挿図197　ＳＩ09遺物図 2　…… 221
挿図198　ＳＩ09遺物図 3　…… 222
挿図199　ＳＩ10遺構図　…… 222
挿図200　ＳＩ10遺物図　…… 222
挿図201　ＳＩ11遺構図　…… 223

挿図202　ＳＩ11遺物図　…… 224
挿図203　ＳＩ11遺物図　…… 224
挿図204　ＳＩ12・13遺構図　…… 225
挿図205　ＳＩ12・13遺物図　…… 226
挿図206　ＳＩ14遺物図　…… 227
挿図207　ＳＩ14遺構図　…… 227
挿図208　ＳＢ01遺構図　…… 237
挿図209　ＳＢ02遺物図　…… 237
挿図210　ＳＢ02遺構図　…… 237
挿図211　ＳＢ03遺構図　…… 238
挿図212　ＳＢ04遺構図　…… 238
挿図213　ＳＢ05遺物図　…… 239
挿図214　ＳＢ05遺構図　…… 239
挿図215　ＳＢ06遺構図　…… 239
挿図216　ＳＢ07遺構図　…… 240
挿図217　ＳＢ08遺構図　…… 240
挿図218　ＳＢ09遺構図　…… 241
挿図219　ＳＢ10遺構図　…… 241
挿図220　ＳＢ11遺構図　…… 242
挿図221　ＳＢ12遺構図　…… 242
挿図222　ＳＢ13遺構図　…… 243
挿図223　ＳＢ14遺構図　…… 243
挿図224　ＳＢ15遺構図　…… 244
挿図225　ＳＢ16遺物図　…… 244
挿図226　ＳＢ16遺構図　…… 245
挿図227　ＳＢ17遺構図　…… 245
挿図228　ＳＢ18遺構図　…… 246
挿図229　ＳＢ19遺構図　…… 247
挿図230　ＳＢ19遺物図　…… 247
挿図231　ＳＢ20遺構図　…… 247
挿図232　ＳＫ02遺構図　…… 250
挿図233　ＳＫ03遺構図　…… 251
挿図234　ＳＫ04遺構図　…… 251
挿図235　ＳＫ05遺構図　…… 251
挿図236　ＳＫ05遺物図　…… 251
挿図237　ＳＫ06遺構図　…… 252
挿図238　ＳＫ06遺物図　…… 252
挿図239　ＳＫ07遺構図　…… 253
挿図240　ＳＫ09遺物図　…… 253
挿図241　ＳＫ09遺構図　…… 253
挿図242　ＳＫ12遺物図　…… 253
挿図243　ＳＫ12遺構図　…… 253
挿図244　ＳＫ13遺構図　…… 254
挿図245　ＳＫ14遺構図　…… 254
挿図246　ＳＫ15遺構図　…… 255
挿図247　ＳＫ16遺構図　…… 255
挿図248　ＳＫ17遺構図　…… 255
挿図249　ＳＫ18遺構図　…… 256
挿図250　ＳＫ19遺構図　…… 256
挿図251　土師器・須恵器・瓦実測図
古銭拓影…… 258
挿図252　中世陶磁器実測図　…… 259
挿図253　竪穴住居の変遷図(推定)…… 262
挿図254　掘立柱建物の長方形度と
床面積の相関図… 263

日下遺跡

挿図 1　第３・６トレンチ出土遺物図… 264
挿図 2　日下遺跡トレンチ位置図…… 266
挿図 3　第１・２・４・５トレンチ断面図 267
挿図 4　第３・６トレンチ断面図…… 268

石州府古墳群

挿図 1　調査前墳丘地形図　…… 269
挿図 2　調査後墳丘地形図　…… 270
挿図 3　29・30号墳墳丘断面図…… 271
挿図 4　29号墳第１～3主体部遺構図1 … 274
挿図 5　29号墳第２・３主体部遺物図… 274
挿図 6　第２主体部遺物出土状況拡大図 275
挿図 7　29号墳第２主体部遺物図２…… 277
挿図 8　布の巻き方の模式図…… 278
挿図 9　第２主体部遺物図３…… 279
挿図10　29号墳周溝内・外遺物図…… 279
挿図11　30号墳第１主体部遺構・遺物図 280

石州府第１遺跡

挿図１　石州府第１遺跡トレンチ位置図… 283
挿図２　石州府第１遺跡断面図…… 284

挿　表　目　次

上福万遺跡

挿表１　集石遺構出土縄文式土器一覧表… 58
挿表２　集石遺構出土　石皿・磨石・敲石・砥石・不明石器一覧表…… 65
挿表３　ＪＳＫ出土縄文式土器一覧表…… 90
挿表４　ＪＳＫ出土　石皿・磨石・敲石・石錘一覧表… 94
挿表５　内面斜行沈線観察詳細…… 136
挿表６　上福万遺跡出土縄文式土器編年的位置づけ… 136
挿表７　Ⅰ類Ｂ種押型文相関表…… 140
挿表８　Ⅰ類Ｃ種押型文相関表…… 140
挿表９　内面斜行沈線・縄文式土器相関表 141
挿表10　内面斜行沈線タイプ相関表…… 141
挿表11　上福万遺跡Ａ区縄文式土器観察表 142
挿表12　上福万遺跡Ａ区縄文式土器組成表 152
挿表13　素材及び石器・石核の石材別個数表… 157
挿表14　石器の石材別個数表 …… 159
挿表15　石器の素材別個数表 …… 159
挿表16　剥片・横形剥片の相関表…… 159
挿表17　石鏃の石材別個数表 …… 159
挿表18　グリッド毎の素材及び石器石核の石材別個数表… 161
挿表19　上福万遺跡石鏃観察表…… 162
挿表20　石皿一覧表 …… 186
挿表21　磨石Ⅰ類一覧表 …… 186
挿表22　磨石Ⅱ類一覧表 …… 189
挿表23　敲石Ⅰ類一覧表 …… 193
挿表24　敲石Ⅱ類一覧表 …… 193
挿表25　敲石Ⅳ類一覧表 …… 194
挿表26　敲石Ⅴ類一覧表 …… 197
挿表27　砥石一覧表 …… 198
挿表28　石斧一覧表 …… 198
挿表29　石錘一覧表 …… 198
挿表30　ペンダント他石製品 …… 199
挿表31　石皿・磨石・敲石・砥石・石斧・石錘特殊石器・ペンダント他石製品一覧表 …… 199
挿表32　竪穴住居一覧表 …… 228
挿表33　竪穴住居遺物観察表 …… 228
挿表34　掘立柱建物一覧表 …… 248
挿表35　掘立柱建物遺物観察表…… 248
挿表36　土坑・土壙遺物観察表…… 256
挿表37　中石陶磁器一覧表 …… 259
挿表38　遺構外遺物一覧表 …… 260
挿表39　竪穴住居の分類 …… 262

日下遺跡

挿表１　日下遺跡遺物観察表 …… 265

石州府古墳群

挿表１　石州府古墳群遺物観察表…… 282

付　図　目　次

付図１　上福万遺跡Ａ区全体遺構図（縄文時代）
付図２　上福万遺跡Ａ区集石遺構図（縄文時代）
付図３　上福万遺跡Ａ区全体遺構図（古墳時代以降）
付図３　上福万遺跡Ｂ区全体遺構図（古墳時代以降）
付図４～16　上福万遺跡Ａ区出土縄文式土器DOT－MAP（平面）
付図４　先行する土器群・Ⅰ類Ａ種（押型文・山形）
付図５　Ⅰ類Ｂ種①（押型文・小楕円）
付図６　Ⅰ類Ｂ種②（押型文・中楕円）
付図７　Ⅰ類Ｂ種（押型文・ナデ消し）
付図８　Ⅰ類Ｃ種（押型文・中・大菱形）
付図９　Ⅱ類Ａ種・Ｂ種・Ｃ種（撚糸文）
付図10　Ⅲ類（縄文）
付図11　Ⅳ類（沈線文）
付図12　Ⅴ類（貝殻文）
付図13　Ⅵ類（刺突文）
付図14　Ⅶ類（無文）
付図15　Ⅷ類（尖底）
付図16　前期遺物
付図17　上福万遺跡Ａ区出土縄文式土器DOT－MAP（断面）
付図18　上福万遺跡Ａ区出土石器DOT－MAP（平面）

第１章　遺跡の概要

第１節　調査に至る経過

昭和59年度に発掘調査を行なった遺跡は、上福万遺跡・日下遺跡・石州府第１遺跡及び石州府29号墳・30号墳の２古墳である。この地域は、古くより土師器等の散布が認められていたため、日本道路公団による中国横断自動車道岡山・米子線建設工事に伴い、昭和57年・58年度の久古第３・貝田原・林ヶ原遺跡の調査を引き続いて、事前発掘調査の必要が生じた。

日本道路公団は、鳥取県教育委員会と協議、財団法人鳥取県教育文化財団が発掘調査の委託を受け、西部埋蔵文化財調査事務所で、所長１名、調査員４名、調査補助員１名が調査を行なうこととなった。

第２節　調査経過及び概要

１　上福万遺跡

上福万遺跡は、米子市上福万字北林、廣畑、八久保田南に、県道金屋谷一米子線を挾んで南北に所在しており、佐陀川の左岸、佐陀川によって形成された扇状地上に立地している。

県道より北側の地区は、畑・果樹園として利用されていた。土師器の散布が多く認められ、相当数の遺構の存在が見込まれたため、全面発掘調査を行なうこととなった。

県道より南側の地区は山林であったが、遺物散布がほとんど認められなかったため、昭和58年12月１日～15日まで、試掘調査が行なわれた。その結果、土師器、須恵器が出土した他、竪穴住居１棟が検出されたため、全面調査を行なうこととなった。

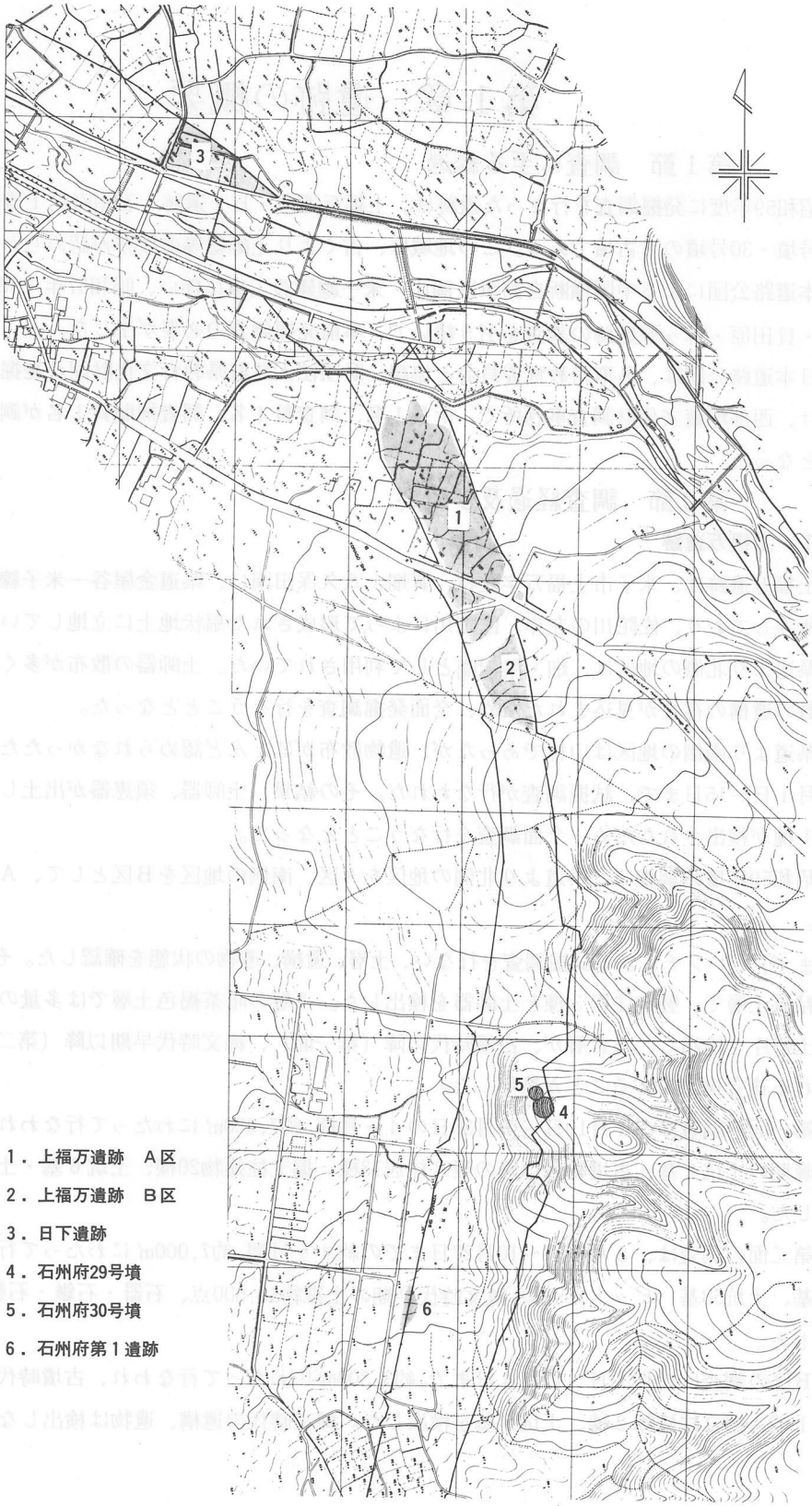
昭和59年度の調査は、県道より北側の地区をＡ区、南側の地区をＢ区として、Ａ区より開始した。

まず、トレンチによる試掘調査を行ない、土層、遺構、遺物の状態を確認した。その結果、黒褐色粘質土層で、竪穴住居３棟と土師器を検出した。下層の暗茶褐色土層では多量の縄文時代早期の土器片を検出し、包含層が、古墳時代以降（第一面）、縄文時代早期以降（第二面）の二期に別れる複合遺跡であることが判明した。

第一面の調査は、４月10日～７月30日の４ヶ月間、約7,900㎡にわたって行なわれ、縄文時代後一晩期の土坑２基、古墳時代以降の竪穴住居13棟、掘立柱建物20棟、土坑６基・土壙墓１基を検出した。

第二面の調査は、８月１日～10月27日までの約４ヶ月間、約7,000㎡にわたって行なわれ、集石31基、土坑58基、ピット109基、縄文時代早期の土器約33,600点、石器・石鏃・石製品888点を検出した。

Ｂ区の調査は10月29日～12月４日まで、約3,300㎡にわたって行なわれ、古墳時代以降の竪穴住居１棟、掘立柱建物２棟、土坑８基を検出した。縄文時代の遺構、遺物は検出しなかった。



1．上福万遺跡　Ａ区

2．上福万遺跡　Ｂ区

3．日下遺跡

4．石州府29号墳

5．石州府30号墳

6．石州府第１遺跡

挿図Ⅱ　上福万遺跡Ａ・Ｂ区、日下遺跡
石州府第１遺跡・石州府古墳群調査地区概略図

2　日下遺跡

米子市日下字河原渕に所在しており、佐陀川の右岸、上福万遺跡の対岸に位置する。圃場整備が行なわれ、水田・畑地として利用されていた。弥生時代前期の土器、土師器等の散布が認められていたため、試掘調査（トレンチ６本）を行なった所、水田側に設定した第３、第６トレンチで多数の遺物を検出した。このため各２トレンチを拡張して調査を行なったが、遺構は検出できなかった。

調査期間は４月17日～５月26日までである。

3　石州府古墳群

石州府29号墳・30号墳は、石州府古墳群に属し、米子市石州府字寺處ノ参に所在する。

石州府古墳群は標高1,711m の大山の山麓西側、佐陀川と別所川とに挟まれた台地及び尾根上に位置している。台地上には10基、標高132m を頂部とする尾根上には34基の古墳が存在しており、今回調査対象となったのは29号墳・30号墳の２基のみである。

29号墳は、「大山西麓埋蔵文化財分布調査報告書　1977・3鳥取県教育委員会」の(3)埋蔵文化財地名表・a米子市・№12の古墳に該当する。30号墳は今回の調査で新しく確認された古墳である。

両古墳は尾根の端部に位置し、ここからは石州府・上福万・日下地区・岸本町・米子市を一望できる。

調査前の状況は、29号墳は径16m 前後、高さ約３m の円墳状を呈し、30号墳は29号墳の裾部から北西へ伸びる台地状地形を呈していた。

調査は、まず発掘調査前の地形測量を㈱北陽測量設計事務所に委託した。次に周溝確認用トレンチを設定し、各古墳の規模の確認、及び、29・30号墳の切り合い関係の観察を行なった。

その結果、29号墳は約16m の円墳であり、30号墳は29号墳の裾部を切って作られていることが判明した。

続いて、土層観察用のベルトを残して表土除去作業を行ない、両古墳の周溝と思われる落ち込みが確認され、調査を行なった。30号墳の周溝は29号墳側でのみ認められ北側では検出されなかった。

29号墳は、墳頂部より掘り下げて行き、埋葬施設を検出し、調査を行なった。獣帯鏡（舶載）１面、鉄剣３本の他、土師器片が出土した。

30号墳は表土除去作業中に埋葬施設を検出し調査を行なった。

時期は、両古墳とも古墳時代前期後半に位置づけられる。

最後に、墳丘測量図を作成、盛土の残る29号墳については地山（岩盤）まで墳丘を断ち割り、土層を観察し、調査を終了した。

調査期間は10月23日～12月５日までであった。

4　石州府第１遺跡

石州府第１遺跡は、米子市石州府字山ノ下タニに所在し、日野川右岸の河岸段丘上に位置する。本地域周辺は、大山山麓特有の黒ボクで覆われており、畑又は果樹園として広く利用されている。調査対象面積は、石州府第１遺跡の端部約280㎡である。

調査は、昭和59年10月24日よりトレンチ３本による試掘調査を開始したが、土師器片１片を検出したのみであったため、本調査の必要性なしと判断し、昭和59年11月９日に調査を終了した。

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境（第３章１節参照）

上福万遺跡（１）、日下遺跡（２）、石州府29・30号墳（３）、石州府第１遺跡（４）[註1]は米子市街地から南東約8.0kmの地域に位置し、標高1,711m の大山の西麓、日野川右岸域に立地する。又、北部を佐陀川、西部を野本川が流れ、南部は岸本町に、東部は大山町に、それぞれ接している。

上福万遺跡は、米子市上福万字北林、廣畑、八久保田南に所在する。北部を流れる佐陀川によって形成された扇状地上に立地し〔標高75m 前後〕、ローム質粘土層、黒ボク層（耕土）が堆積している。縄文時代・古墳時代・奈良時代の遺物、遺構が、これら２層を文化層として検出されている。従来の分布調査では、縄文土器（早期）、土師器、須恵器、陶器、石鏃等の散布、出土をみている。

日下遺跡のうち、今回調査を行なったのは、米子市日下字河原渕の地域である。南部を流れる佐陀川によって形成された扇状地上に立地し〔標高65m 前後〕、礫層、砂層（耕土）、粘質土層（耕土）等が堆積している。縄文時代～室町時代に至る遺物が包含されているが、遺構は確認できなかった。従来の分布調査では、土師器、須恵器、陶器等の散布、出土をみている。

石州府29・30号墳は、米子市石州府字寺處ノ参に所在し、大山火山活動に伴って形成された山陵〔溝口凝灰角礫岩〕の尾根端〔標高100m 前後〕に位置する。29号墳主体部内において、獣帯鏡（舶載鏡）が出土した。

石州府第１遺跡は、米子市石州府字山ノ下タニに所在する。日野川水系による河岸段丘上〔岸本礫層〕に立地し〔標高75m 前後〕、粘質土層、黒ボク層（耕土）が堆積している。従来の分布調査では、土師器の散布がみられる。

第２節　歴史的環境

●縄文時代

旧石器時代～草創期とされる有舌尖頭器が、米子市奈喜良遺跡（５）、岸本町貝田原遺跡（６）会見町諸木遺跡（７）で表採されており、大山町坊領、荘田でも出土している。これらの遺跡は、現標高100m前後の丘陵（台地）上及び、山陵の裾部に位置する。早期では、米子市上福万遺跡をはじめ、岸本町久古北田山（８）、久古第３（９）、番原第１（10）、須村（11）、林ヶ原（12）遺跡等があり、これらの遺跡は現標高70～200m 前後の丘陵（台地）上に位置している。前期・中期では、米子市陰田（13）、目久美（14）遺跡、岸本町林ヶ原遺跡等があり、現標高200m 前後の丘陵（台地）上及び、山陵の裾部に位置している。後期・晩期では、米子市上福万遺跡をはじめ、米子市陰田・目久美・青木（15）遺跡、岸本町林ヶ原遺跡等があり、現標高50～200m前後の丘陵（台地）上及び、山陵の裾部に位置している。旧石器～縄文時代を通じて、遺跡の位置は、現丘陵（台地）と、現山陵の裾部の二つの地域に大別できる。

縄文海進（有楽町海進）期の海面変動は、次の様に推定されている。[註2]

1．上福万遺跡　2．日下遺跡　3．石州府古墳群　4．石州府第１遺跡　5．奈喜良遺跡　6．貝田原遺跡　7．諸木遺跡
8．久古北田山遺跡　9．久古第３遺跡　10．番原第１遺跡　11．須村遺跡　12．林ヶ原遺跡　13．陰田遺跡　14．目久美遺跡
15．青木遺跡　16．福市遺跡　17．諏訪遺跡群　18．岸本原遺跡　19．大寺原遺跡　20．日原古墳群　21．普段寺古墳群
22．宗像古墳群　23．吉定古墳群　24．三崎古墳群　25．東宗像古墳群　26．日下古墳群　27．尾高古墳群　28．長者原古墳群
29．越敷山古墳群　30．大寺廃寺　31．長者屋敷跡　32．坂中廃寺　33．大神山神社　34．宗形神社　35．尾高城跡　36．河岡城跡
37．岸本要害跡　38．天万要害跡　39．米子城　40・41・42．石州府第２遺跡・第３遺跡・第４遺跡　43．中間古墳群
44．百塚原古墳群　45．岡成古墳群　46．石田古墳群　47．越敷ヶ丘遺跡

挿図Ⅲ　周辺遺跡分布図　　1：50,000

海進↓ 18,000年前頃……現海面より140m 内外低位
10,000年前頃……現海面より25～30m 内外低位

海退⋮ 6,000～5,000年前頃…縄文海進の頂期、現海面より０～５m 程度高位
4,000～2,000年前頃…現海面より３m 内外低位

海進↓ 2,000～現在 ……現海面に至る

『地学辞典』によると、縄文海進以後のゆるやかな海退期に、砂州や砂丘が形成され、現海岸や平野が形成されていったとある。また、気候的には、18,000年前頃の寒冷期から増温期を経て、7,000～5,000年前頃の温暖期に至る。温暖期の気温は、現在よりも約２℃高く、その後減温期を経て現在に至るとある。

この縄文海進期の海面変動を、そのまま当てはめることは危険なのだが、一応米子市周辺では、次の様に推定される。18,000年前頃の低海面期に、「立川面」に相当する海岸段丘面？(岸本礫層？)が形成され、これ以降増温期に入るとともに縄文海進が始まる。この頃の日本列島は大陸と陸続きであり、現在の米子市周辺には、隠岐島まで続く広大な陸地が存在していた。6,000～5,000年前頃（縄文時代早期末～前期初頭頃）には、海進の頂期を迎え、現海面とほぼ同じ、もしくはやや高い海水準に達した。旧石器～縄文早期末頃までの遺跡が、現在の丘陵（台地）と山陵裾部にしか見られないのは、この期の遺跡の大半が、18,000年前以後の海進によって海中に没し、さらに沖積層に覆われてしまったためであろうと推察でき、現在山陵裾部にある遺跡は、かろうじて埋没から免れたのであろう。海進が進むにつれて、旧日野川・法勝寺川から供給された土砂、並びに海流の変化等による砂州や砂丘等の様相の変化（堆積環境の変化）が予想されるが、この期においても大小多くの砂州や砂丘が形成されていったことは確かであろう。その一つに米子市目久美遺跡があげられる。ここでの前期の生活範囲は、当時の汀線（現海抜０m 付近）より微高な砂州（砂礫層よりなる）から南部の山裾部に向かって広がっていたと推定できる。前期の遺跡には、岸本町林ヶ原遺跡の様に、現在とほぼ同じ標高（200m 前後）を持つ丘陵（台地）上に立地するものもあり、米子市目久美・陰田遺跡とは様相を異にする。これは生活習慣の違いであろう。縄文時代後期～弥生時代前期にかけて海退が生じ、当時の海面は現海面より３m 内外低位にあったとされている。この頃には、ほぼ現在の弓ヶ浜半島に相当する砂州が存在しており、漁労を中心とした生活が、米子市目久美・陰田遺跡・境港市西灘遺跡等で営まれていた。境港市西灘遺跡は弥生時代前期の遺物も出土しており、遺跡は現海面下1.5m内外の海中に没している。これは前述の海面変動とほぼ一致しており、弥生時代前期から現在に至る海進により海中に没し、新しい砂州に埋もれていったと考えられる。また、これら遺跡周辺は、海退によって低湿地となり、弥生時代に入って水田として利用されていく。一方米子市上福万・青木遺跡・岸本町林ヶ原遺跡等では、前代の継続として狩猟・採集中心の生活が営まれていたのであろう。

●弥生時代

縄文時代後期～弥生時代前期の海退によって低湿地が形成され、また砂州や砂丘も広がっていった。この時代の遺跡には、米子市目久美・福市（16)、青木・諏訪遺跡群（17)、岸本町岸本原遺跡（18)、大寺原遺跡（19)、林ヶ原遺跡等がある。総体して、農耕文化導入期の段階では、水

稲に最も適した場所（水利の良い低湿地）で水田を作り、その近くの微高地に集落を形成していたが、その後、灌漑技術・農工具の発達や鉄器の導入等により、人口が爆発的に増加し、米子市青木遺跡・諏訪遺跡群等の丘陵（台地）上に集落が広がっていったといえる。そして、岸本町林ヶ原遺跡のような標高200m前後の丘陵（台地）上にも、集落が形成されていくようになる。

●古墳時代

前代に継続して、集落は丘陵（台地）上に広がっていくが、中期以降は低地に移行する傾向がある。米子市上福万遺跡においても前期集落が形成され、石州府29・30号墳（前期）が築かれている。前期古墳として米子市日原6号墳（20）、会見町普段寺1・2号墳（21）。中期古墳として米子市陰田41号墳（13）、宗像41号墳（22）、岸本町吉定古墳群（23）、会見町三崎殿山古墳（24）がある。後期古墳として、米子市青木遺跡古墳群（15）、東宗像古墳群（25）、日下古墳群（26）、尾高古墳群（27）、岸本町長者原古墳群（28）、越敷山古墳群（29）等がある。

●飛鳥～平安時代

米子市上福万遺跡において奈良時代の遺構・遺物が検出されている。白鳳期の寺院として、岸本町大寺廃寺（30）が建立される。平安期に入って、今回の調査地域が文献に登場する。『和名抄』によると「日下郷」という地名が見られ、会見郡十二郷の一つに数えられている。この郷域は、今回調査した地域、石州府を含めた佐陀川上・中流域周辺に比定できる。また『和名抄』によると「会見郡会見郷・巨勢郷」にあたる地域に、岸本町長者屋敷（31）、坂中廃寺跡（32）が所在し、この地域は会見郡衙の位置として想定されている。式内社として、米子市尾高に大神山神社（33）、宗像に宗形神社（34）がある。

●鎌倉時代～現在

中世城館として、米子市尾高城跡（35）、河岡城跡（36）、岸本町岸本要害跡（37）、会見町天万要害跡（38）等がある。特に米子市尾高城は戦国期の交通の要衝に位置していたため尼子・毛利両氏の激戦地となった。江戸時代に入ると、吉川広家、中村一忠によって築かれた米子市米子城（39）は鳥取藩の支城となり、西伯耆の中心となった。明治以後、米子市米子城は廃城となり、本地域周辺は一時島根県に属した（明治9年）が、再び鳥取県に属し（明治14年）現在に至っている。

註1　例言15参照

註2　『日本の第四紀研究―その発展と現状』(日本第四紀学会編・東京大学出版会)
　　完新世の海面変動　井関弘太郎（P89～97）参照